

Bauhaus Project



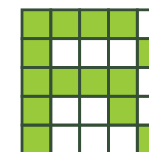
Architecture
Presentation

architect
Naoki Miura

Naoki Miura
Architecture & design
office



建築家と建てる家を、
身近に、手軽に



R+house

※建築家住宅(建築士の資格を持つ独立した建築家により基本設計された住宅)
主要供給事業者7社における2017年度、2018年度新築供給数
(株)矢野経済研究所調べ/2019年8月現在





担当建築家

三浦 直樹

三浦直樹建築設計事務所@京都

Miura Naoki



個人の住まいは住む人家族に大きな影響を与えるもので、

今後の人生を左右するといっても過言ではありません。

そのように考えると住まいは見た目の美しさだけではなく美しいあり方
かどうかが大変重要になります。

あたりまえのものがあたりまえに、あるべきものがあるべきところにあること。

これらをもっとも大切にしています。

Profile

1982 年滋賀県生まれ。

2005 年京都造形芸術大学芸術学部環境デザイン学科 卒業

2005 年横内敏人建築設計事務所 入所

2013 年三浦直樹建築設計事務所 設立

和み佇む家

POINT①

隣家の視線をうまく遮ったプライベートな庭

POINT②

玄関から広がる、広々とした土間スペース

POINT③

飾らない、品のある外観

キッチン



キッチンはアイランドか壁付けのペニンシュラ型で迷ってます！以前は、キッチンの後ろに冷蔵庫があって狭かったから広いキッチンがいい。



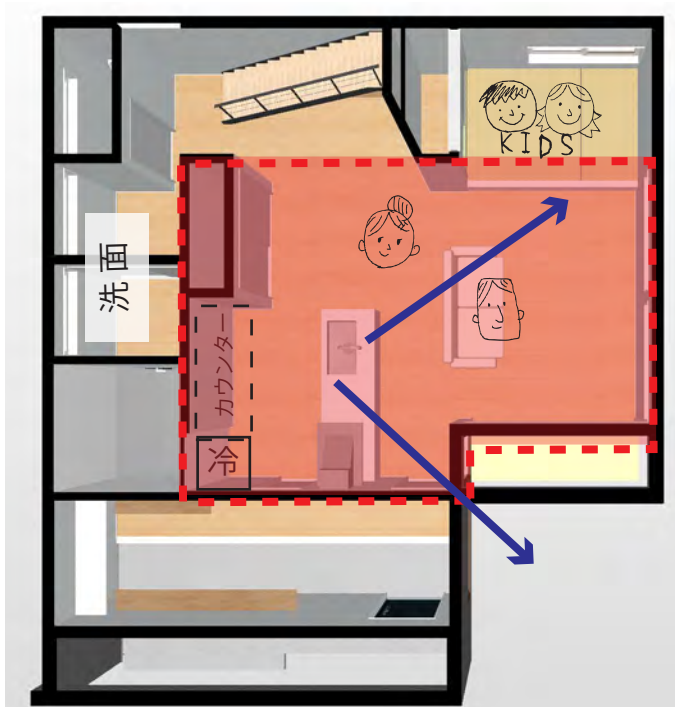
キッチンは**全体のバランス**を見ながら設計していきます。



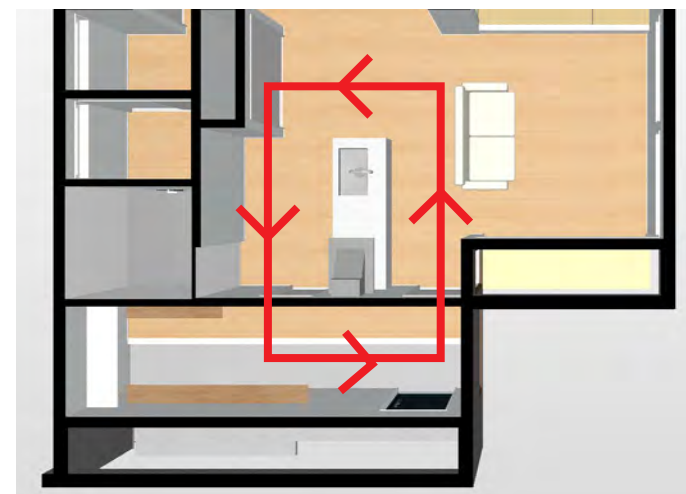
ぐるぐると回れて行き止まりが無いので奥様やご主人が料理をする際でも使いやすく、作業しやすいことを考えて設計しました。

キッチンの後ろは冷蔵庫と収納の中央にカウンターを設けました。家電置きやちょっとした物置にも丁度良い位置だと思います。

また、キッチンからリビングや和室が見えるので料理中でも手を止めずに家族の様子が伺えますし、洗面などの水回りをキッチンの後ろに配置したので洗濯などの「家事動線」が短くなり家事もしやすくなります。



1 F



子ども部屋・寝室



色々と考えているんですが、まだ小さいうちはリビングで会話しながら勉強するイメージなので、まずは広々とした仕切りのないスペースにしておいて、後々子供の成長に合わせて仕切るようにできればいいな。

主寝室は寝られれば OK です。寝室で特別何かをすることもないので・・・

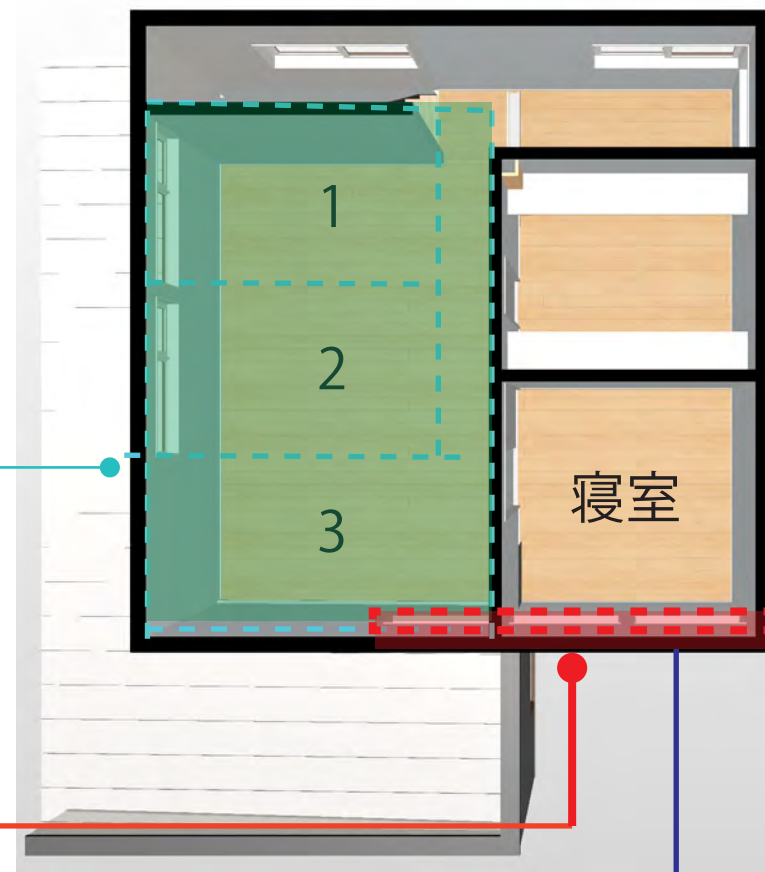


子ども部屋は将来3部屋にできるように設計してます。年齢が小さいお子様の場合、個室を必要とするのは10年後くらいなので将来性を考えて自由に仕切れるようにしています。主寝室は特に大きな要望はなかったのでベッドを置く必要最低限の広さ4.5帖です。広くすることは出来ませんが、その分コストがかかるので「広さ」ではなく「その部屋に必要な広さ」が大事です。



子ども部屋は建物の正面にもなるので、外観の雰囲気崩さないよう3つ並べて配置しています。更に視線が抜けて圧迫感を感じない窓の配置にしています。子ども部屋と、主寝室の南側は建物の正面（顔）にもなります。その為、南面の窓は同じ大きさで横一列に並べています。大きさや位置がバラバラだとスタイリッシュな外観イメージが崩れてしまうからです。窓の配置は室内の快適さだけではなく外観のデザインにも影響するのでとても重要です。

2F

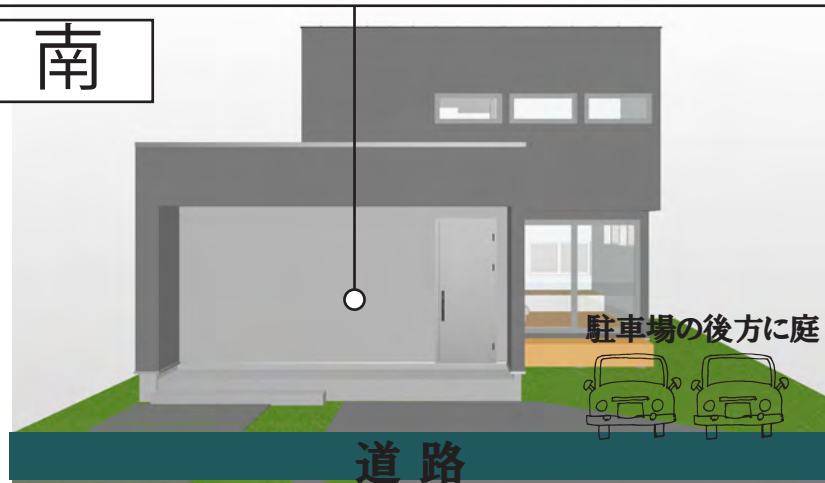


外へ向かって視線が抜ける



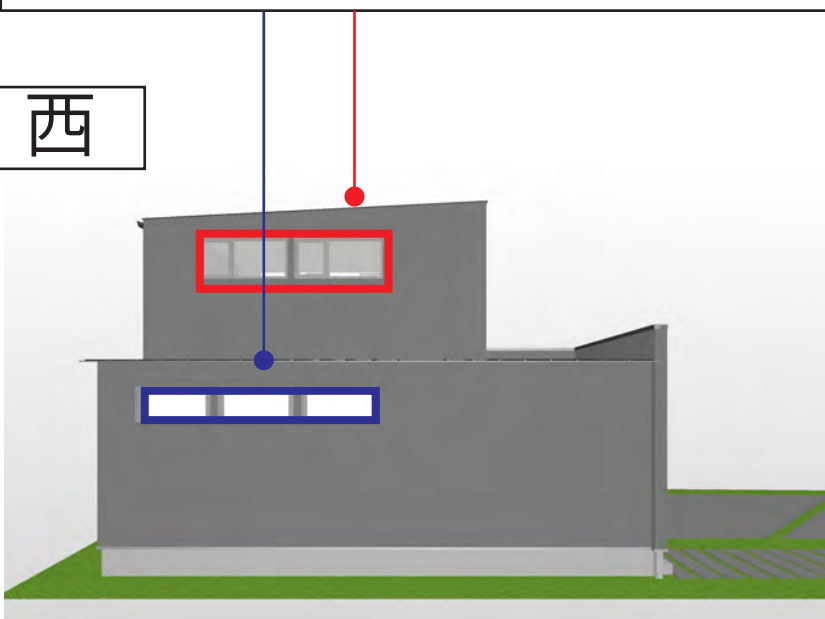
南側は道路沿いで、視認性が高いため「閉じて」いる。
玄関外のポーチを広めにとっているので、自転車や植物を置いたりシンプルながらもインパクトがあるつくり。

南



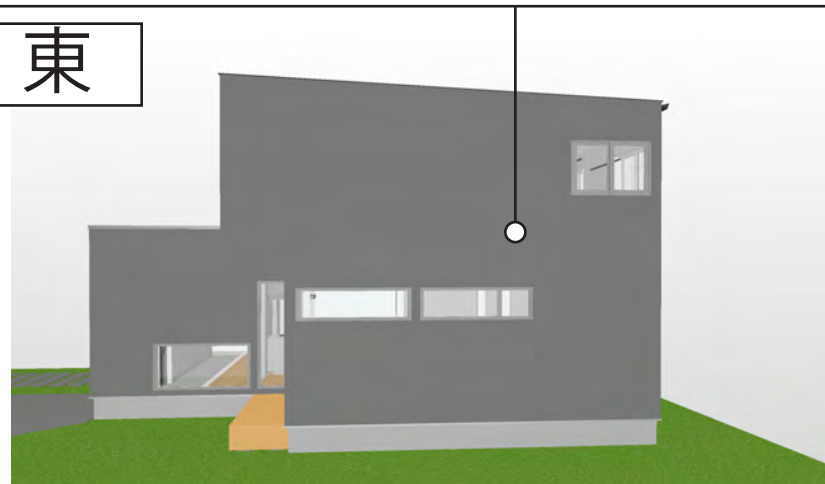
西側の隣家からの視線を考慮し、窓の位置を高くし尚且空が見えるような感じで窓を高く配置している。

西



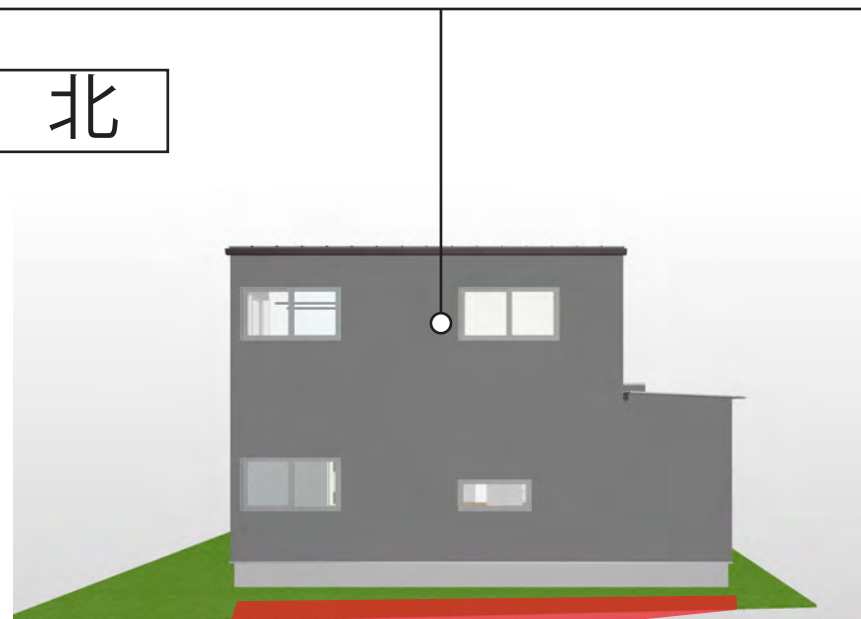
東側は開けている。景色がよくリビング庭まで目線が抜ける。

東



北側は景色がよく開けているため、室内へ光をおとすために窓を設けている。

北



室外機などを配置するスペース

熊本市風配図

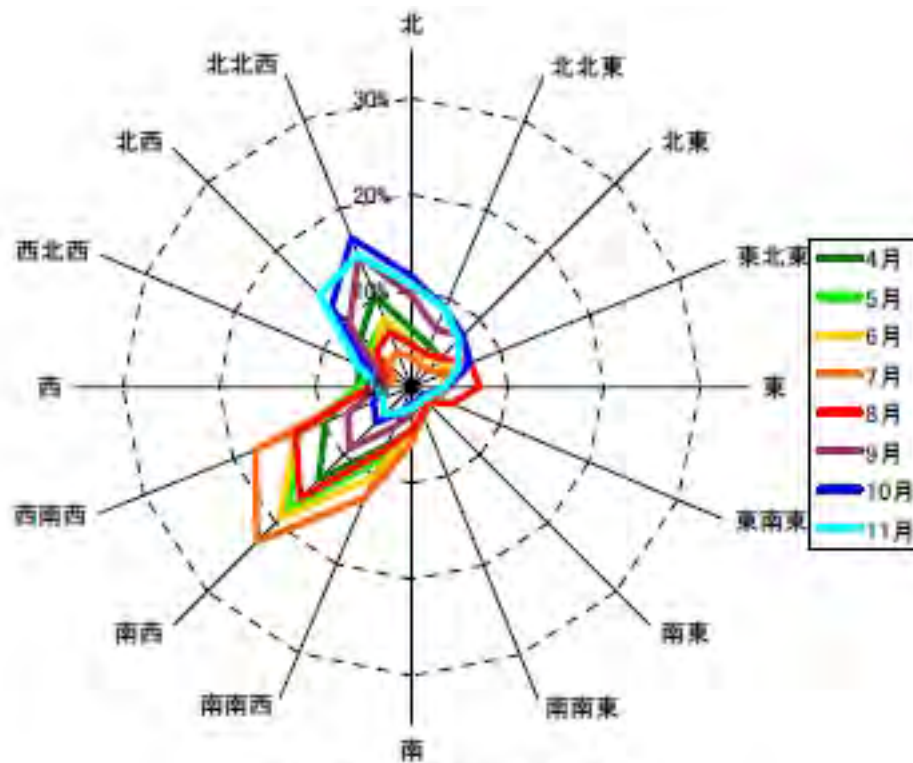


図4a 月別風配図(起居時)

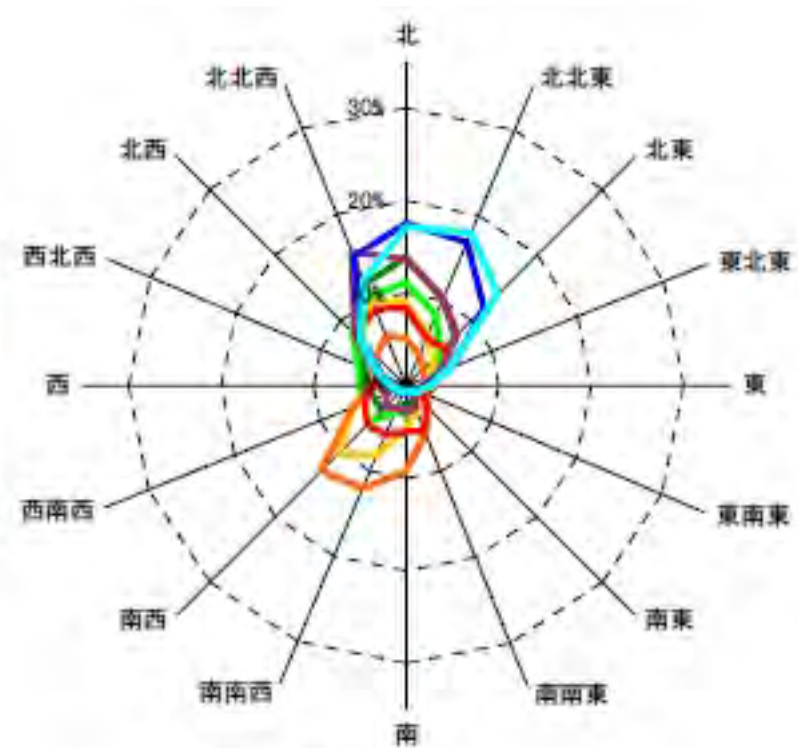


図4b 月別風配図(就寝時)

風配図とは、各方位の風向および風速の頻度を表した図です。

建築家は周辺の建物や環境を実際に目で見て、データと照らし合わせながら風の向きや、入り方なども計算して「窓の配置」「窓の種類」「建物の配置」を決めていきます。

冬は部屋の奥まで光を取り込み暖かく、夏は窓から入る直射日光を避け、涼しく
自然の力を最大限活かしたパッシブ設計。

真冬午後12時



(冬至) 太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が低くなる為、太陽が西に傾く頃、窓から部屋の奥まで暖かい光を取り込むことができる。

真夏午後12時



(夏至) 太陽の南中高度（太陽が真南にきて、一番高く上がった時の地平線との角度）が最も高くなる為、軒を出して日射を遮り、室温の上昇を抑える。



夏と冬では太陽の位置が異なります。建築家は季節ごとに変わる太陽の動きも熟知した上で設計します。